

就労継続支援

(B型)事業所

ワークス 翔

「いつもありがとうございます」

「ワークス歩から異動して5年過ごしての感想は、最高、もちろん。」

「どの辺が最高ですか。」

「休憩の時大きいテレビの前で座椅子に座ってゆっくりできるところ。」

「一番好きな作業は。」

「(両手で作業の仕草をしながら)大東金属。蝶番を組み立てて形にするのが楽しい。いっぱい作業もできるのもいい。」

「匠で一番良かった思い出はなんですか。」

「食事会。毎回いろんな所にみんなと行けるからこないだ食べたすしも最高。」

「これから頑張りたいことはありますか。」

「これからもずっと大東金属の作業がんばりたい。」

「歩で11年がんばったから匠でも11年。それ以上はがんばりたい。」

「作業好きなんですわね。もちろんやん。(笑)」

安達 強

就労継続支援B型事業所

ワークス翔 かける

平成25年10月1日から『ワークス翔』がスタートし8年の歳月が経ちました。

今も「清掃班」「ハウスクリーニング(以下HC)班」「軽作業班」の3班に分かれ、日々それぞれ作業に取り組んでいます。

私は、平成26年度の終わりにワークス翔を異動となり、令和3年度、6年ぶりにワークス翔に戻ってきました。

利用者さんは戻って来た私に「久しぶり!またよろしくな」と迎えてくれ、久しぶりに来る事業所に懐かしさと温かさを覚えました。ワークス翔の作業は、以前と比べ、清掃班と軽作業班が新たにHCを始めたことや、HC班の清掃する部屋が減ったこと、利用者さんの異動と新規利用がありました。

ワークス翔を始めた当初、「ここむずかしい。ゴミ残る。」などとHCに苦戦をしていた利用者さんも、今では

清掃を行わなくなった理由について考えると、職員の引継ぎがきちんと出来ておらず、利用者さん頼みだったことが考えられます。

私も含めてですが、多くの人は仕事を減らしたいと考えているでしょう。新人職員に「ここやらなくてもいいのですか」と聞かれた利用者さんは「やらんでいいよ」と答えます。それが積み重なった結果だと思えます。

ある時「この掃除やってやってますか」と住民の方に聞かれ、焦ったこともありました。その場所はしばらく清掃ができていなかった場所であり、数か月前から始めたばかりでした。

こういったことを踏まえ、職員が各建物でどこの清掃をしなければならぬのかを把握するため、きちんと引継ぎが出来るように清掃マニュアルを作成しました。コロナ禍であっても、みんなで食事をしたという

利用者さんからの希望で、昨年度事業所のレイアウトを大きく変更しました。この希望を聞いた時「そういえば、利用者さんの意見を聞く機会って少ないのでは」と強く印象に残りました。

法人の他事業所では『利用者会議』という会議を定期的に開いており、その会議では旅行の行先や、事業所内の気になる事、食事会で食べたいものなどと様々なことを利用者さんが主体で会議を進めています。

勿論、ワークス翔でも希望を聞く機会はありませんが、全員が集まって話し合うことは難しいと思っていました。ワークス翔職員から「そういった会議があればいいのでは」と意見もあり、今年度から利用者会議を開催しました。

まだ、定期的に開催しているとは言えませんが、少しずつ定着していけたらと思います。

以前の記事にも書かれています。職員一人で班を担当する事が多く、その場の対応や、支援に行き詰った時にすぐに相談できる環境にないことが大きな悩みになっていきます。

あれから職員が担当の班にこだわらず、色々な班に入って支援する事や、情報を共有する時間を増やすなどの取り組みを行い、少しずつこういった環境は改善されてきました。しかし、職員一人での担当制は変わらず、支援の質を高める意味で、ワークス翔の体制を一度見直さなければならぬと考えています。

複数の職員で、支援についてその場で検討や対応が出来、今ある利用者さんの仕事を守りつつ、より良い環境での支援が出来ればと考えています。(川口)

うれしー!たのしー! 😊

レクリエーション

昨年3月より「グループホーム レクリエーション」を毎月第三土曜日に実施しています。

夏まつりを実施しました。

近年、ヘルパー不足により利用者さんが余暇活動に参加できる機会が減っています。それぞれ自分達で休日を通すことができていますが、より楽しく過ごすことができるようイベントを考え、ワークスユニオンのグループホームに住んでいる利用者さんであれば、申し込み必ず参加可能で、各建物の利用者さんがイベントに応じて多数参加されており、利用者さん同士久しぶりの再会やグループ活動に笑顔も見られます。

コロナ感染拡大により中止した月もありますが、大阪市立科学館・映画・海遊館・大阪市立自然史博物館・ボウリングに出かけました。7月は生活介護事業所「和」で、コロナ禍でも夏を感じられるイベントとして、

レクリエーションとしてうちわ作り・輪投げ・お菓子釣り・ボウリングもあり、うちわ作りは、時間をかけて表裏それぞれに絵を描く人、表を描いて「完成」と言い裏は無地の人、ひとりひとり個性のあるうちわが完成しました。

和 野外活動

和では6月に、野外活動としてユニバーサルスタジアムオジャパン(以下USJ)に行ってきました。

当日は天候に恵まれ、多少暑さを感じながらも皆さん元気で良い表情でした。

スパイダーマンのアトラクションに乗ったAさんは、大興奮して全身で楽しんでいて、乗車時に付ける専用の3Dメガネが飛んでいくというハプニングがありました。よほど楽しかったのか、その後、何度もそのことを嬉しそうに話されていました。

笑顔を見せていた方、キャラクターグッズを購入して満足していた方など、普段と違った雰囲気を十分に満喫して帰ってきました。

新型コロナウイルスが流行してから様々な活動に制限がなくなか、昨年は企画しながら見送った経緯もあって、開催できたことは外出を好まれる利用者さんにとって、よい気分転換となりました。

後日、保護者の方より、「こんなに近いのにUSJには行ったことがなく、今回行って嬉しい。」と感想をいただき、改めて行って良かったと思いました。

来年も野外活動ができる状況であることを願います。(野崎)

参加利用者さん21名、前日装飾した物が殆ど落ちていて、慌てて当日朝、装飾するハプニングもありました。おにぎり・焼きそば・フラックフルト・きゅうりの一本漬け、衛生面に気を付けて職員の手作りです。かき氷・綿菓子もあり、かき氷はなかなか氷が機械に合わず、調整しながら各自の好みの味を選んでもらい提供しました。綿菓子は機械にザラメの残りが溜まり、除去しながら提供しましたが、利用者さんは嬉しそうに並んで待ってくれていました。

イベントの最終にバーベキューの雰囲気と題し、焼き肉をひとり少量ずつ提供しました。おなか一杯と言いつつも大喜びで完食されていました。

イベント終了後「楽しかった」と笑顔で話す利用者さんが多く見られ、今後も様々な思い出を増やしていきたいと思いました。(福浦)

アトラクションだけでなく、施設内を歩いているだけで別世界のような建物に



機関紙の四面の上二段に「窓際おじさんのつぶやき」のタイトルで、小文を書き出してはや十年、我が齢も六六となり、娘にも子供が生まれたので、孫が四人にもなった。

自分が若いとは更々思っていないのだが、電車などの「優先座席」には、絶対座れない自分がいる。

これも私の「こだわり」の一つなのかしれないが、ほかにも、幾つかのどうしても行ってしまうこだわり行動が、私には存在する。

私が、いつになれば「優先座席」に座れるようになるかは分からないが、体力の衰えと共に、そのうち座りたいと思う様になる時が来るのだろうか。

個性豊かなワークスユニオンの利用者には、私以上にたくさんのこだわり行動を持つ人も多い。

数年にわたり毎日まいにち、同じ内容の会話を私としなければならぬBさんがいたのだが、昨年の途中頃より、私にはほとんど話しかけないようになった。エアコン嫌いなCさんは、職員がエアコンをつけてもいつも自分で消し、リモコンを隠すとコンセントを抜いてエアコンを切っていたのだが、三年目の今年は、エアコンの効いた部屋で過ごせるようになっていた。

数日や数か月では、全く変わらないように見える利用者の「こだわり行動」も、五年・十年の長いスパンで見ると、絶対とは言えないが、かなり変容するものなのだ。遅々たるものかもしれない利用者のその変化も気長に見守れて変容も検証できる私たちでありたい。

職員紹介

真尾 恵理子 (まお えりこ) まお えりこ
ワーワークス 翔

入職して約二年。以前は訪問ヘルパーや放課後デイサービスの仕事をしていましたが、児童の他に大人の障がい者の方と関わる仕事に就きたくてワークスユニオンに入職しました。ワークス翔の利用者さんには、事業所で楽しんで過ごして貰えるように各々が望んでいる事を理解し実現できるように頑張っているようです。その為にもコミュニケーションをより大切にしたいとも思われています。

編集後記

休日は、自宅でマンガを読んだり映画鑑賞をしています。人の時間を満喫しています。好きなジャンルは「サスペンス系」。何かお薦めの物がありましたら教えて下さい。

原田 華子 (はらだ かこ) はらだ かこ
ワーワークス 匠

音楽好きで、「音楽なしの人生は考えられない」と話す彼女は入職しておよそ一年半。入職前は、福祉職の他に託児所の英語講師やホテルなど色々な業種を経験したと聞きました。

この仕事は、利用者さんとの関わりでその人を理解したり、知りたいと考えることがやりがいと話します。休日は、甘い物や美味しいものを食べたり、動物園や水族館に出かけてリフレッシュしています。また、今年度からダンスクラブに入部し、利用者さんと一緒に練習を頑張っています。そこでは、事業所とは違う一面を知ることができ、新たな発見もしています。 (助野・高橋)

▼先日ついに新型コロナウイルスに罹患した。日頃の手洗い、うがい、十分な睡眠と感染症対策を講じてきたが、陽性となった。▼辛い症状は軽く、微熱と全身の筋肉痛が3日程度で快方に向かった。▼10日間の隔離期間は自宅で静養したが、母親と二人暮らしのため、母親にうつきないうつ、完全に隔離して生活した。トイレは一つしかないため、毎回使用後に消毒する作業が大変であった。▼身体の回復後は毎日退屈との闘いだ。つたが、観たかった洋画がほぼすべて鑑賞できたことは良かったと思う。▼自宅に10日間も缶詰状態で過ごしたことは、今まで経験したことがなく、精神的なしんどさが大きかった。できるだけ利用者さんにもこのような思いはしてほしくない。これからさらに気を引き締めて感染症対策に取り組みたい。 (H)